

衛生看護科が実習病院にエール!

最前線へ感謝とエール

病棟に掲示された田鶴浜高の生徒からの応援メッセージいずれも七尾市藤橋町で



各地から公立能登総合病院に届いた医療資材

県内で感染者が出始めた三月ごろから寄付が徐々に増えた。県内外の企業や個人、団体からフェースシールドやマスクなどの医療器材、花、菓子類などが届いている。県外の住民からは、ごみ袋を切る

新型コロナウイルスの感染者らを受け入れている公立能登総合病院（七尾市藤橋町）。先月二十七日に看護師一人の感染が確認された後も職員の奮闘が続く同院に、医療資材の寄付や応援メッセージが多く寄せられている。副院長兼看護部長の沢味小百合さんは「不安と緊張の中で働いており、温かい支援が支えになっている」と感謝する。（中川絃希）

公立能登病院に寄付続々

看護の卵 田鶴浜高生からメッセージも

「未来の看護師が私たちを見て、『こんな怖い仕事をしたくない』と辞めてしまわないかと不安だった。でも逆に、看護の道の大切さを感じてくれたような言葉もあってうれしかった」と沢味さん。「今後も地域の人が安心して受診してもらえるように頑張っていきたい」と話した。同院では現在、消毒液とガウンの不足が懸念されているといい、寄付を受け付けている。

七尾市の田鶴浜高校衛生看護科の生徒からはメッセージが届いた。「感染リスクの中、最前線で尽力いただきありがとうございます」と笑顔で患者さんに向き合う姿を尊敬します」などと記されており、職員が目につく病棟に掲示している。

コロナ禍
の中で

公立能登総合病院へ応援メッセージを送りました

北陸中日新聞 令和2年5月17日(日)